



みらいっうしん

7月号

2019年6月28日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

感情と行動

梅雨のじめじめした季節の中でも、毎日元気いっぱいの子ども達！晴れ間の日には、水遊びやプール遊びを思いっきり楽しんでいて、とても生き生きとしています。興味関心があるものには、とことん慢心するまで取り組んでいる姿も多くみられるようになり、子どもさん一人一人の成長を深く感じます。

さて、遊びや友達との活動が盛んになると、笑いや楽しさの反面、自分の気持ちと行動が、相手に思うように表現できない時等に、一瞬にして、さまざまな場所でけんかに発展してしまうことがあります。時には、感情そのままに相手を傷つけてしまう行動を起こすこともあり、その時の感情によって力の度合いもコントロール出来ないこともあります。その都度、保育者が、両者の話をよく聞き対応していますが、なかなか1度では解決できません。また、危険だと分っていても興奮して活動をやめず、怪我してしまうこともあり、痛い思いをして自分の行動の良し悪しを理解することもあります。このことから、乳幼児期は、「感情」と「行動」は、密接な関係にあると言えます。

人間は、そもそも「感情の動物」と言われる位、いろいろな感情を持っていて、喜んだり、怒ったり、悲しんだりと繊細で複雑なものと言われています。

人間の感情は、0歳の快・不快から始まり、2歳までには怒り、恐れ、愛情、嫉妬を覚えるなどと、情緒が細かく分かれていきます。そして、2歳くらいになると感情を言葉で話すようになり、他人の表情からの感情の理解も少しずつできるようになります。幼児期後半になって、やっと人によって感じ方や表情の違い、複雑なものということを理解し、自分の感情のコントロールもできるようになるようです。感情のコントロールができるようになれば、言葉で、穏やかに感情表現ができ、相手にも気持ちが伝えられ、突然たたいたり、噛んだりという行動は自然に無くなっていきます。感情の発達は、人との関わりが不可欠であり、けんかが起きることが問題ではなく、どうしてトラブルになったのかをお互い理解することだと思います。体験を通して知識や思考力も育っていきますので見守っていきたいと思います。みらいこども園は、一人一人を尊重することを大切にしていますが、最近、遊びの中で、危険なものを使って遊んでいることもありましたので、善悪の判断ができない子どもさんだからこそ、真剣に受け止め、危険な道具をただ排除するのではなく、使い方によって危ないことや命の大切さを丁寧に指導していくことを職員全員で、これからも行っていきたいと思います。

